ふれあい広場

このページは市民の皆さんと一緒につくるページです。投稿・登場をお待ちしています。秘書広報課（市役所内線207）

クローズアップ

今、「旬」の人や団体を紹介します。

キャッチボールクラシック全国大会で初優勝

西脇ワイルドキッズ ベースボールクラブ

「手のひら捕球」で日本一 白球とともに自信をつかむ

「キャッチボールクラシック」は、野球の原点であるキャッチボールに親しんでもらおうと日本プロ野球選手会が考案した競技で、9人の選手が二手に分かれて2分間でキャッチボールした回数を競います。その全国大会小学生の部に初出場し優勝を飾ったのが、西脇ワイルドキッズベースボールクラブです。

＊　＊　＊

西脇ワイルドキッズは、小学1年生から6年生の計35人が、毎週末、西脇小学校で野球の練習に励んでいます。代表を務める西村憲二さんの指導で「手のひら捕球」に取り組んできました。

「手のひら捕球」で基礎固め

通常、野球を始めたばかりの子どもには、ボールを捕りやすいように大きめのグラブを与えがちですが、西脇ワイルドキッズでは逆に、小さめのグラブの使用を勧めています。グラブが小さいと捕球しにくくなるので、グラブの真ん中でボールをつかみ、両手を使って体の正面で捕るという基本をしっかり身に付けることができるそうです。部員たちも「最初のころは痛かったけど、次第にうまく捕れるようになって痛くなくなった」と笑います。

西脇ワイルドキッズのコーチ陣は、着実に実力を付けていく部員たちを見るたびに、まじめでおとなしい彼らが試合本番で実力を出し切れないことにもどかしさを感じていました。「子どもたちが自信を持つきっかけが何かあれば」。西村さんたちの模索が始まりました。

キャッチボールクラシックとの出会い

西脇ワイルドキッズは、6月に三田市で行われた野球大会に参加した際に、そこで行われていた「キャッチボールクラシック」を初めて知り、飛び入り参加。いきなり昨年の全国優勝回数を上回る115回を記録しました。その瞬間、「やった！」と、いつもはおとなしい部員たちが喜びで沸き立っていました。

コーチ陣は、子どもたちが自信を持つためのきっかけをやっと見つけました。

心の弱さに向き合って

その日から、子どもたちは日本一を目指して、どんどん積極的になっていきました。西村塁主将を中心に、より早く捕って投げ返せるように教え合うようになり、野球の試合でも盗塁や進塁を阻止する回数が増えるなど守備が上達。後は、周囲から注目を集める中、キャッチボールクラシック全国大会で本来の実力を発揮することだけです。

12月6日、倉敷市で行われた全国大会の試合を勝ち上がるうちに、部員たちはどんどん自信を付け、決勝では日本記録となる116回を記録。見事、日本一に輝きました。試合前に弱気だった姿はもうそこにはありませんでした。

6年生にとっては、12月19日からの野球大会がこのチームで最後の舞台。全員が「今度は野球でも勝ち上がって、大好きなこのチームで少しでも長く野球を楽しみたい」と目を輝かせていました。

キャッチボールの鋭い音が響く